

H&Sデモカーのご紹介

1. デモカーリニューアル

当社が目指すH&S企業は、顧客価値の最大化を提供することを基本方針とするもので、シール製品(ハード)だけではなく、シールエンジニアリング全般を提供することを目指すものである。

その一環として、体験型シール施工教育センターである、シールトレーニングセンター(STC)を2014年から開設している。またその価値訴求と有効性の浸透を図るべく、2015年から、STC講習設備の一部を搭載し、顧客構内で簡易体験デモを行う“STCデモカー”の運行を開始した。

こうした取り組みは多くの顧客からも受け入れられ、プラントオーナーやエンジニアリング関係者などからも高い評価をいただいている。STC講習も年々増加傾向にあり、幸甚の至りである。

STCデモカーは2年間の活動の中でSTCの価値訴求という目的を果たしたものと考え、より多様なH&Sサービス・パッケージの宣伝・訴求力を向上させるべく、“H&Sデモカー”として全面リニューアルし、2017年秋より運行を開始した。



Figure1 H&Sデモカー

2. コンセプト

“H&Sデモカー”は、STC講習への誘引にとどまらず、シールエンジニアリングを中心とした当社のH&Sソリューション領

域において新たに開発・取扱いを開始したサービス・パッケージの一部を搭載し、デモ実演並びに顧客の体験機会を提供することで、視覚的体感的に価値訴求を行うことを基本コンセプトとした。

また、全面リニューアルを行うことで、過去に運行、デモを行った顧客に対しても、新たな“H&Sのサービス・パッケージ”に関する価値訴求を可能とした。

3. 搭載設備概要

3-1) モバイルシールトレーニングシステム(MSTS)

モバイルシールトレーニングシステム(MSTS)はSTC講習設備を移動・組立式設備とすることにより、現地にて現場作業の方々を対象としたシールトレーニングを、顧客自身が講師となって実施いただけるよう、設備及び講師育成を一体としたサービス・パッケージである。

デモカーには特に訴求力の高い“フランジ締付け実習設備”及びトルク感覚実習設備”を搭載し、トレーニング体験の機会を提供する。



Figure2 モバイルシールトレーニングシステム(MSTS)

3-2) フランジ・ソリューション・ツール

シールを確実にを行うには、適切なシール選定はもちろんのこと、適切な施工管理が重要となる。配管フランジ同士が適切

な位置関係にない場合の修正作業は危険を伴ううえ、多くの作業人員と時間を要する。当社ではこれら作業を安全かつ効率的に行えるフランジ・ソリューション・ツールの提供を開始している。

デモカーには大型のデモ・フランジ・ユニットを搭載し、フランジのずれ(アライメント)調整などのデモ実演を行うとともに、油圧レンチやボルトテンショナーなどのボルト締結工具の実物展示も行っている。



Figure3 フランジ・ソリューション・ツール

③ 施工後の作業性に優れる

・カッター切断が可能のため、開放検査が簡便

デモカーでは、“特殊防錆施工ユニット”を搭載し、特殊防錆樹脂塗工の実演を行い、一般塗装との差別化を訴求する。



Figure4 特殊防錆施工ユニット

3-3) 防錆施工サービス

各種プラント、船舶などは流通面を考慮して、主として国内沿岸地に立地・運用されている。沿岸部では流通の利便性が優れている反面、プラントや船舶を構成する機器・配管には、塩害(設備の錆び)が課題となっている。

これに対し、防錆塗装が主として適用されているが、寿命・施工工期・スマート化など種々の課題を抱えており、新しい防錆技術が要望されている。

一般的に使用される防錆塗料は、接着性に乏しく設備と塗料の間に生じる間隙をきっかけに剥離が発生し、2~3年に一度の再施工が必要となる。また、再施工に当っては、劣化塗膜を剥離させることを目的としたケレン作業が必要となるため、可燃を嫌うプラントなどでは作業停止時の限られた時間で施工する必要があるが、乾燥工程含め、多大な工数を要する。

以下の特性を有した特殊防錆樹脂材料を用いた防錆管理サービスにより、これらの課題を解決できる。

① 長期防食性

- ・樹脂内部より滲出する油分により、酸素・水分を遮断
- ・滲出期間が長期にわたるため、持続性に期待できる

② 運転中の施工が可能

- ・一般塗装と比較し、工具を使ったケレン作業が不要
- ・接合部などケレンができない(塗装ができない)部位に対しても施工が可能

施工前



施工後



Figure5 防錆施工例

4. おわりに

H&Sソリューションの宣伝・訴求力向上を目的とした“H&Sデモカー”を紹介した。搭載内容については顧客ニーズに対

して、新たに開発、取扱い状況に応じて、順次改訂していくことも想定している。

顧客のお役立ちを求めて、日本全国を運行していく予定である。



野々垣 肇
H&S 事業本部